



私たちが住むまちの未来は 私たちの手で守る

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



定。代表を務める岐阜大学の高木朗義教授は「いい事例を積極的に真似して、まちの改善につなげてほしい」と、多くの組織・団体の参加を呼びかけています。私たち1人1人が自分のまちを改善しようというアイデアを出し合うことも、持続可能な社会の実現につながるはずです。



2019年度は6つの組織・団体が受賞

「TTPとは、「徹底的にバグる」の頭文字。いい活動を真似し合うことを目的に、まちづくりのアイデアを募集し、一般投票で真似したい活動を表彰しています。表彰式では、参加団体の交流会を開催

今年度からは、対象地域を岐阜市内から岐阜県内に拡大し、ネット投票によって表彰者を決定する予

ぎふまちづくりTTP大賞実行委員会は、2018年に岐阜市住民自治推進審議会の有志で発足。同審議会の中で、各地域の住民組織や市民団体が抱える課題には、共通点が多い一方で、解決方法を共有する場がなく、各々が苦労を重ねて運営方法を模索している現状を知り、それぞれの手法を互いが参考にしながら実践できないかと考えました。

ぎふまちづくりTTP大賞として表彰されるのは、自治会やまちづくり協議会など地域の住民組織を対象とした「地縁コミュニティ部門」と、NPO法人など専門的視点でまちづくりを支える団体を対象とした「目的コミュニティ部門」の2部門。昨年は、地域のけやき通りの落ち葉清掃を行う「けやき祭り」を新たに実施した「本郷まちづくり協議会」と、郷土の歴史を保存・継承するために、学生や若い世代を巻き込んでイベントや情報発信を行う「黒野城と加藤貞泰公研究会」が大賞を受賞しました。



活動内容のポスターを見て投票

今年から対象を拡大 県内の事例を共有

し、それぞれの課題や解決法を共有。受賞団体のアイデアは、より多くの人に真似してもらうために、ホームページなどを通じて発信しています。



事例発表・交流会の様子

いつまでも住み続けられるまちを実現するために、行政サービスだけに頼るのではなく、自分たちが住むまちが抱える課題解決を目指す住民組織・団体が増えています。そうした活動を取り上げ、広く発信しているのが「ぎふまちづくりTTP大賞実行委員会」です。

「いいまちづくり」を 真似し合う

SDGs特集 まちづくり × SDGs

第5回

SDGsが目指す、いつまでも住み続けられる持続可能な社会に向けて、今「自分たちの課題は、自分たちで解決する」という意識をもった市民起点のまちづくりが求められています。今回は、住民が地域を変える活動を後押しする取り組みを紹介します。

OKB 大垣共立銀行

社会保険労務士 加藤一正事務所

岐阜県JAグループ

岐阜信用金庫

下呂温泉観光協会

プロジェクト特設サイトオープン

最新事例を紹介

支援している企業の
取り組み情報や活動事例の
紹介はこちらから



取り組み企業、事例についてお寄せください。

SDGs岐阜推進プロジェクト事務局
中日アド企画 岐阜支社内
岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル7階
TEL.058-265-6281

株式会社 三光堂

十六銀行

トヨタホーム岐阜株式会社

株式会社 マルエス産業

私たちは持続可能な開発目標 SDGsを支援しています。

※50音順